

福山大学 大学教育センター 大学教育論叢  
創刊号（2014 年度） 2015 年 3 月発行

## 学習自己評価と授業改善

竹盛浩二 前田吉広



# 学修自己評価と授業改善

竹盛 浩二\*

前田 吉広\*\*

Mastering Self-Evaluation and Teaching Improvement

Koji TAKEMORI\*

Yoshihiro MAEDA\*\*

## ABSTRACT

This paper reports on how students reflected on and evaluated themselves about their learning in the course of Japanese Expression from the following four perspectives: values, proficiency, motivation and achievement. This paper also reports on how students developed their awareness of academic achievement. The data from the students' own evaluation and their comments were collected and statistically analyzed. Among the four perspectives listed above, the factor which contributes most to the improvement of the course is discussed through the data analysis.

キーワード：学修自己評価、日本語表現法、学修改善、授業改善

## 1. はじめに

本学学生の学修改善のためには、学生による自己評価システムの導入は急務である。学修を客観化させ、達成度を意識化させることによって学修改善をはかり、授業改善の方略を探る必要がある。

本学初年次教育において「日本語表現法」がこれまで抱えてきた諸課題を克服するためにもその授業改善は最大の課題であるが、その方向性を探るためには学生の声に耳を傾け、学生自身による自己評価を蓄積し、その分析を行う必要がある。

学生による自己評価を導入し、本学における「日本語表現法」の課題をいかに克服するのか。この問題意識から本授業研究は始まる。

## 2. 「日本語表現法」の課題

「日本語表現法」のあり方に関し、本学ではこれまで国語教育研究会において何度も検討がなされ、最近では平成24年度、「学生の国語力の実態に基づいて」を副題とする国語教育研究会の答申<sup>1</sup>が出されている。

基本的には、「学部間や同一クラス内での力の差が大きい」という学生実態のもと、「初年次の日本語表現と学部専門科目群との繋がりが明確でなく、トータルな国語教育の指導計画が描けていない」という確認がなされ、問題点として「教育システムの構築と適切な運用にあるということが教員間の共通認識としてあることが確認された」とし、「教員の意識の共有を図るための仕組み作り」と「実現していくべき具体的な事柄に関わる提案」が示されている。

FD的な活動を促し、全学共通目標の設定という考えを示し、カリキュラムマップ作成の必要性（知識・技能・態度がバランスよく項目立てられるよう配慮を）をうたい、さらには国語力養成に関わる

---

\* 大学教育センター講師    \*\* 大学教育センター助教

活動の設定も提案している。

答申に向けては、「日本語表現担当者懇談会」や、各学部委員による「国語教育研究会」が何回も検討を重ねている。その記録によれば、各学部委員からは、それぞれの国語観あるいは国語教育観が語られ、それぞれの専門領域と国語教育の関わりについて卓見が示され、いくつもの具体的な提言がなされている。「学生の自覚」がいかなるときに生まれるのか、「学生の動機づけ」をいかに行うかについての議論が交わされ、「学部学科間の差を越えて、国語力養成についてコアな共通性を提示する」ことの必要性が確認されている。教養ゼミとの連携、あるいは全学部で文学鑑賞が必要であるなど、様々な意見が出されている。ボキャブラリーの貧困、敬語などの実用日本語への不安、文体統一がままならないレポートなど、学生の今日的な実状についての指摘もなされている。他大学の取り組みについての調査結果も示され、少人数演習の必要性、漢字の読み書きを含めた練習の意義の確認もなされている。

そういうなかで、答申のまとめに向けて、共通性のある学習者把握と問題点の抽出がなされ、「個々の授業で目標を置く」「ワークシート改革、ポートフォリオによる振り返り学習」などについて意見が交わされている。「ロジカルシンキング」による「思考力」の充実という点にも関心が寄せられており、言語の本質に常に目を向けながら議論が重ねられたことを窺わせる。英語教育や数理教育に関しても同様に丁寧な検討が重ねられて、これら問題意識のひろがりのなかでこの答申は出されたのである。

このたびの「日本語表現法」に関する授業研究は、本学のこのような継続的な検討プロセスを踏まえ、継承性を担保しつつ、あらためて初年次教育としての「日本語表現法」のあり方について検討を試みるものである。

### 3. 「日本語表現法」における自己評価の試行に向けて

「日本語表現法」の課題を確認しつつ、平成26年度「日本語表現法」の授業を進めるなかで、学内教育振興助成を受けて、「本学学生の学修改善に資する自己評価システム開発のための基礎的研究」<sup>2</sup>を始めることとなった。この研究の「概要」は以下の通りである。

本研究の目的は、学生の学修履歴を把握するツールとしてのポートフォリオないし「履修カルテ」を試行的に作成する過程において、これを教員と学生の双方向型のものとするを構想し、本学で学ぶ学生の学修の質・量の向上を図る一助とすることである。こうした方法は、履修者自らが当該科目で何を学んだのかを振り返ると同時に、今後必要な学習について考えるための手がかりとしうる点に特徴がある。また、自らに対する管理能力を身につけさせることも、その目的の一つに挙げられる。

具体的には、パイロット・スタディ的に研究グループの各教員が担当する諸科目「教育課程論」「日本語表現法」「物理」「英語発展」などの履修者のなかから希望者を募り、これらの学生と研究グループ教員との共同作業を通じて「科目別履修カルテ」の基本パターンの確立を目指す。(中略)…この開発過程においては、①学習目標を学生に常に確認させる。②学習成果を学生自らが確認し、達成感の蓄積をはかる。③学習成果の変容をデータ化・可視化する。④学生による自己評価と教員による助言を通じての変容を加味した評価を創るなどの効果が期待しうる。また、カルテ作成の双方向的過程を通して、教員の指導力向上も期待しうる。

本研究により期待しうる成果として、本学における学修のプロセスがどの程度可視化しうるかどうか、さらに本学の学生の実態に照らして、上記パイロット的諸科目のみならず全学的、全面的導入が可能か否かを検証し、広範な応用可能性を探ることを挙げうる。なお、類似の試みは他機関でも実施されており、関連情報収集のための調査も必要になる。本研究で得られた効果については、最終報告書として取り纏める。

この研究組織中、第2グループ(竹盛・前田)の研究「学生の自己評価導入による初年次教育の改善」は、「学生の自己評価」モデルの設計と「初年次教育の改善」に資する基礎データ収集を主眼とし、「学生の自己評価」の双方向的過程を通して学修プロセスの「可視化」を行い、教員の「授業改善」と「指導力向上」をはかり、さらには本学の学生のための「初年次教育の改善」への道筋を探ろうと

するものである。

「双方向的なポートフォリオ」を指向しながら、その可能性と限界についても、担当科目の特性やコンピュータシステム上の問題を考慮に入れつつ、検討を行っている。

#### 4. 自己評価の実施と諸課題

平成26年度前期、竹盛は必修「日本語表現法」の授業5クラスを担当した。履修学生数は総計264名（工学部情報工学科と生命工学部海洋生物科学科と薬学部）である。このすべての学生を対象に自己評価を試行した。「日本語表現法」15回の展開と、毎回の自己評価の観点は〈別表〉の通りである。自己評価データが揃うのは、マークシートやスキャナ、読み取りソフトなど、実施環境が整った6回目の授業からであり、以後そのデータを蓄積していった。

自己評価の観点A～Dは、「価値」「技能」「態度意欲」「総合的達成感」の4つの領域とした。これらは、本学ディプロマポリシーに基づくカリキュラム・ポリシーにおける「知識」「技能」「態度・意欲」との対応を考慮したものであり、この大枠のもとで、毎回のレッスンに即して具体的に評価規準を示し、これにしたがって学生に自己評価を行なわせた。授業終了時の自己評価は、本時の学習目標の再確認ともなり、達成感を促進させ、意欲喚起に繋がるものであると、考えた。

学生の自己評価は自身の意識に忠実でありつつも、同時に他者評価を敏感に意識したものとならざるを得ないが、その評価を極力否定的なものにさせない配慮は必要である。そのためには、毎回の授業内容の新鮮さに配慮し、その難易度の調整を行い、それらの系統性を考えながらの教材配列が重要となる。学生の自己評価を高めるために、授業展開におけるコンテンツの調整と配列は重要な要素となる。

学生集団の特性ということがある。学部が変われば、興味関心が違う。学習は、そういう要素に左右されるべきでないとも言えるが、彼らのなかでの「価値」「意欲」「達成感」は、多くが興味関心のある内容であるかどうかによって左右される。授業展開におけるコンテンツの調整と配列では、学部学科ごとの集団属性にも配慮しなければならなくなる。

学生ごとの個性にも目を向ける必要がある。個々の学生における自己評価の変容は各々特徴的であり、その変容の可視化も試みてみた。これは、授業者にとって学生個々の把握のためには必要なツールとなる。学生にとっても自らの学修を見つめ、自らの特性を捉え直し、より意欲的に学びを創造していくために、あるいはその変容をもたらす要因を意識化するためにも有効である。しかしながら、今回はそれを学生にフィードバックするに至っていない。

#### 5. 自己評価データの統計分析から

〈別表〉の通り、6回分の授業については、学生による自己評価データを得ることができた。さて、この自己評価データから何が見えてくるのか。

この分析に関しては、本学人間文化学部心理学科橋本優花里教授に依頼することになったのであるが<sup>3</sup>、以下のような分析結果となっている。分析には、6回にわたり欠損値のない200名のデータが用いられている。

##### （1）4つの領域の6回にわたる変化

4つの領域について、6回にわたる自己評価の平均値と標準偏差を算出した(表1)。これについて、領域ごとに回数を被検者内要因とする1要因の分散分析を行った。

「価値」については、6回にわたる評価の平均の間に有意な違いが見られ( $F(5,995)=20.6, p<.001$ )、Ryan法による多重比較を行った結果、9回目の評価は他の5回のそれよりも低く、15回目の評価は7回目と9回目のそれよりも高いことが明らかになった( $p<.05$ )。

「技能」については、6回にわたる評価の平均の間に有意な違いが見られ( $F(5,995)=21.6, p<.001$ )、Ryan法による多重比較を行った結果、15回目の評価は他の5回のそれよりも高く、10回目の評価は6回目、7回目、9回目のそれよりも高いことが明らかになった( $p<.05$ )。また、11回目の評

価は、6回目と9回目のそれよりも高いことが明らかになり、7回目の評価は9回目のそれよりも高いことが明らかになった( $p < .05$ )。

「意欲」については、6回にわたる評価の平均の間に有意な違いが見られ( $F(5,995) = 9.6, p < .001$ )、Ryan 法による多重比較を行った結果、6回目、7回目、10回目、11回目、15回目はそれぞれ9回目と5回目の評価より高いことが明らかになった( $p < .05$ )。

「達成感」については、6回にわたる評価の平均の間に有意な違いが見られ( $F(5,995) = 16.3, p < .001$ )、Ryan 法による多重比較を行った結果、9回目の評価は11回目をのぞく4つの回よりも有意に低く、15回目の評価は他の5回のそれよりも高いことが明らかになった( $p < .05$ )。

表1 各領域の6回の授業における学生の平均評定値と標準偏差 ( $N=200$ )

	6回目		7回目		9回目		10回目		11回目		15回目	
	$\bar{X}$	$SD$	$\bar{X}$	$SD$	$\bar{X}$	$SD$	$\bar{X}$	$SD$	$\bar{X}$	$SD$	$\bar{X}$	$SD$
価値	4.0	0.9	3.9	0.9	3.5	1.1	4.0	0.9	4.0	0.9	4.2	0.8
技能	3.5	1.0	3.7	0.9	3.4	1.1	3.9	0.9	3.9	1.0	4.1	0.8
意欲	4.1	0.9	4.1	0.9	3.9	1.0	4.2	0.9	3.9	1.0	4.2	0.9
達成感	3.9	1.9	4.0	0.9	3.7	1.0	4.0	0.9	3.9	1.0	4.3	0.8

## (2) 4つの領域の相関と偏相関

15回目における4つの領域の評価点について、相関係数を求めた結果、表2のようになった。これについて無相関の検定を行った結果、いずれの組み合わせにおいても有意であることが示された( $p < .01$ )。

表2 15回目の4つの領域の評価点の相関係数

	価値	技能	意欲	達成感
価値		0.75**	0.71**	0.78**
技能			0.69**	0.77**
意欲				0.80**
達成感				
平均値	4.2	4.1	4.2	4.3
$SD$	0.8	0.8	0.9	0.8

注. \*\* $p < .01$

次に、15回目における4つの領域の評価点について、偏相関係数を求めた結果、表3のようになった。このことから、「価値」と「技能」、「価値」と「達成感」、「技能」と「達成感」には弱い相関が、そして「意欲」と「達成感」、そして「意欲」と「技能」の間にはほとんど相関がないことが明らかになった。

表3 15回目の4つの領域の評価点の偏相関係数

	価値	技能	意欲	達成感
価値		0.35	0.17	0.34
技能			0.14	0.31
意欲				0.48
達成感				
平均値	4.2	4.1	4.2	4.3
$SD$	0.8	0.8	0.9	0.8

### (3) 4つの領域における重回帰分析

15回目の授業について、「価値」「技能」「意欲」の評価点から「達成感」の評価点を予測するために、強制投入法による重回帰分析を行った。その結果、「価値」「技能」「意欲」の評価点が予測に有意で、この3つの変数で従属変数の76%を説明しており、かなり予測率が高いと言える(表4)。

表4 重回帰分析で得られた偏回帰係数、標準偏回帰係数および定数項

	偏回帰係数	標準化偏回帰係数
価値	0.279	0.295
技能	0.256	0.257
意欲	0.380	0.411
定数項	0.466	

### (4) 考察

まずは、9回目の授業の問題が浮上してくる。この回は意見文を書く授業であり、ひとつのテーマに指定したことで書きづらかったようである(10回目はその様子を踏まえて複数テーマのなかから選択)。授業展開におけるコンテンツの調整と配列には細心の注意が必要である。

15回目の授業は最後の総合的な自己評価であって、他の回と比べて「達成感」は高くなっている。これはひとまず喜んで良いところであろう。

達成感を抱くということは、学生においてさらなる学修改善に繋がるにちがいない。しかしながら今回のように、基準変数としての「達成感」と、「価値」「技能」「意欲」という説明変数との偏相関、またその説明変数相互の偏相関の結果には、いますこし説明変数の切り分けに問題がありそうである。とりわけ「価値」「技能」相互の偏相関を見れば、このふたつの変数には、ずいぶん検討の余地がありそうである。

この問題は、じつは毎回の「日本語表現法」において、授業ごとの「技能」を抽出することの難しさでもあって、この不統一は〈別表〉に顕れてもいる。

むしろ、「日本語表現法」においては「価値」と「技能」を分離せず、これをひとつに纏め、「達成感」に対してもう一つ別の変数を据えてみてはどうかという反省も出てきそうである。

そういう視点を得て、勢い、今後は授業改善の問題になるのである。

## 6. 学生のコメントから課題を読み取る

15回目の最後に、すべての授業を振り返らせ、考えることを書かせた。これを読んでいくと、学生の言語能力実態や学習意識を知ることができ、授業に関する様々な課題が見えてくる。ここでは、下記の5つの類型にまとめ、各々摘出できた課題を以下に記述してみる。

- (1) 毎回の授業を肯定的に振り返り、学修を客観化し、達成感を抱く者
- (2) 高校までの国語嫌いゆえの抵抗感を払拭し、自己の成長を語る者
- (3) 高校までの国語嫌いを克服できないままに推移し、満足感を得られない者
- (4) 授業での様子や提出物において学習困難な状態であると見なされていた者
- (5) 共通教育としての「日本語表現法」の意義を理解し、これを言語化する者

## (1) 毎回の授業を肯定的に振り返り、学修を客観化し、達成感を抱く者

①

<p>1 1回目の自己紹介文を書く授業では、様の文字を用いて自己紹介文を書きましたが、普通の自己紹介文とは違い、様の文字を用いて書かなければならなかったのととても難しかったです。しかし授業を聞いていろいろな書き方を知り、また他の人の書いた内容も知ることができました。</p> <p>第6回の発想法では牛乳給食廃止という新聞記事を読んだそれをフローチャートやマトリックスなどの図で表わす授業でしたが、文章を図で表わすことは私自身苦手でした。しかし授業で他の人の図を見て、とても参考になり、私も自信を付けることができました。</p> <p>第8回ではテンパンジーの話を要約したり、解剖図表で表わしたり、自分の考察や意見を表わす授業でした。この回は今までで難しかった課題だと思っています。テンパンジーに関してあまり興味はなかったですが、この講義であらためて、テンパンジーについていろいろ知ることができました。</p> <p>そして第13回の漢字では、高校以来の漢検でした。やはり難しかったです。特に四字熟語の部分で意味がわからなく、苦戦しました。今後受ける場合は、もう少し勉強をしたいと思っています。</p>	<p>日本語表現法のレッスン</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介文を書く</li> <li>2 伝えるための表現のあり方1</li> <li>3 伝えるための表現のあり方2</li> <li>4 敬語の使い方</li> <li>5 意見文を書く1</li> <li>6 発想法</li> </ol>
---	---

▶各回のレッスンが自分自身にとって有意義であったと言う。このような学生の存在は評価できる。

②

<p>日本語表現法のレッスンを今まで受けてきて、一番始めの「自己紹介文」では書いていたうちに自己紹介文ではなくなり、最後は無理矢理自己紹介文らしくまとめようとしてしまい、失敗だったなあと心で苦笑いしたことを今でも覚えています。それからの「伝えるための表現のあり方1,2」では相手や状況に応じて言葉を使いわけることを学びました。そして「敬語の使い方」では、私はあまり敬語のことを小学校の時から理解不足でとてもその時苦労をしました。「意見文を書く1」では自分の意見を率直に書くのが久しぶりすぎて、とてもまとまったような文章になってしまい、改めて難しいなと感じました。「発想法」からの「文章の論構造」「要約から読解へ」「意見文を書く」では、テンパンジーのボツソウの森の話を元に文を書く練習をしました。ここでもやはり、自分の意見をうまく表現できず、本当に難しいと思いました。「課題選択意見文を書く」「他者の文章から自己の文章を書く」ことで、やと自分らしく表現できるようになりました。そして、その後の「手紙・はがき・案内状などの書き方」「常用漢字・日本語語彙の基礎確認」で、間違いは多かったけれど楽しくとりくむことができました。今日までずっと授業を通して下さり本当にありがとうございました!! これからも文章を書く力を身につけながら頑張りたいと思います。</p>	<p>日本語表現法のレッスン</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介文を書く</li> <li>2 伝えるための表現のあり方1</li> <li>3 伝えるための表現のあり方2</li> <li>4 敬語の使い方</li> <li>5 意見文を書く1</li> <li>6 発想法</li> <li>7 文章の論構造</li> <li>8 要約から読解へ</li> <li>9 意見文を書く2</li> <li>10 課題選択意見文を書く</li> <li>11 他者の文章から自己の文章を考える</li> </ol>
--	---

▶どのレッスンから「やと自分らしく表現できるようにな」ったかを振り返っている。レッスン素材の配列やチューニングに関し、示唆に富む記述である。



③

<p>私は、昔から文章を書くことが好きだったので、この授業は楽しかったです。日本語表現の授業を通して、自分の苦手分野を理解出来たと思います。自分の苦手分野は、敬語と漢字です。普段、目上の方と話す時も、毎日頃敬語を意識して会話をしているのですが、敬語を使うとだんだん慣れてしまいます。だから、敬語を改めて習ったことをきっかけに、敬語を意識して使いたいと思いました。漢字は今の時代パソコンや携帯で済ましてしまうことが多くなったため、少々読めなくても大丈夫なという考えをもっていました。しかし、先生が授業の際おしゃべりした時に、人の名前であたり、文の読み方を間違えてしまうと相手に失礼だし、自分自身も恥ずかしい思いをすると思いました。漢字をやった時も、出ない所ばかりで正直かなり驚きました。今では漢字を軽く見てしまっていたと反省しました。これから社会に出て新入社員になった時、患者さんの名前を読み間違えたりしても、その他でもこれから大学生生活、お時間時間を有効に使って、勉強頑張りたいと思います。</p>	<p>私は、昔から文章を書くことが好きだったので、この授業は楽しかったです。日本語表現の授業を通して、自分の苦手分野を理解出来たと思います。自分の苦手分野は、敬語と漢字です。普段、目上の方と話す時も、毎日頃敬語を意識して会話をしているのですが、敬語を使うとだんだん慣れてしまいます。だから、敬語を改めて習ったことをきっかけに、敬語を意識して使いたいと思いました。漢字は今の時代パソコンや携帯で済ましてしまうことが多くなったため、少々読めなくても大丈夫なという考えをもっていました。しかし、先生が授業の際おしゃべりした時に、人の名前であたり、文の読み方を間違えてしまうと相手に失礼だし、自分自身も恥ずかしい思いをすると思いました。漢字をやった時も、出ない所ばかりで正直かなり驚きました。今では漢字を軽く見てしまっていたと反省しました。これから社会に出て新入社員になった時、患者さんの名前を読み間違えたりしても、その他でもこれから大学生生活、お時間時間を有効に使って、勉強頑張りたいと思います。</p>
<p>日本語表現法のレッスン</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介文を書く</li> <li>2 伝えるための表現のあり方1</li> <li>3 伝えるための表現のあり方2</li> <li>4 敬語の使い方</li> <li>5 意見文を書く1</li> <li>6 発想法</li> <li>7 文章の論構造</li> <li>8 要約から読解へ</li> <li>9 意見文を書く2</li> <li>10 課題選択意見文を書く</li> <li>11 他者の文章から自己の文章を考える</li> </ol>	<p>意見文を書いた時、自分の伝えたいことを立てたつもりでしたが、文を書いている途中で、その意見と反対しようとしたので、そこも直していいと思いました。課題提出とすると、基本先生が読んで下さって7人の人に紹介して下さいたので、自分では上手くいかなかったと表していた文章もまとめれていたのかなと自信をもつことが出来ました。15回という短い間でですが、本当に楽しかったです。ありがとうございました。</p>

▶文章を書くことが好きであり抵抗なく取り組めたが、自分の課題も確認できている。不安な文章に高い評価をもらい、自信となったと述べている。

④

<p>第4回の敬語の使い方では、普段使っている会話では敬語が使えていますが、改まった文章などではあまり使えていないことが分かりました。</p>	<p>第4回の敬語の使い方では、普段使っている会話では敬語が使えていますが、改まった文章などではあまり使えていないことが分かりました。</p>
<p>そして、私が一番難しいと感じたのは第8回の要約から読解への100字要約です。要約は文章の主題を読みとり、まとめるといっても難しいですが、特に100字で要約するというのが難しいです。100字での要約では、例を入れることができません。主題を分かりやすくまとめるのは難しいです。個人的には、とても苦しかったです。その分この回の達成感や満足感は大きかったです。</p>	<p>そして、私が一番難しいと感じたのは第8回の要約から読解への100字要約です。要約は文章の主題を読みとり、まとめるといっても難しいですが、特に100字で要約するというのが難しいです。100字での要約では、例を入れることができません。主題を分かりやすくまとめるのは難しいです。個人的には、とても苦しかったです。その分この回の達成感や満足感は大きかったです。</p>
<p>第10回の手紙・はがき・案内状などの書き方では、普段は手紙を書かないため、とても新鮮な気持ちで取り組むことができ、手紙などの形式的な書き方も学ぶことができたので、実際手紙を出すときは、この回のプリントなどを見直して、良い文章が書けたらいいと思います。</p>	<p>第10回の手紙・はがき・案内状などの書き方では、普段は手紙を書かないため、とても新鮮な気持ちで取り組むことができ、手紙などの形式的な書き方も学ぶことができたので、実際手紙を出すときは、この回のプリントなどを見直して、良い文章が書けたらいいと思います。</p>

▶自身の言語能力の足りない点に気づき、一方で思いのほか文章が書けることを発見し、今後の課題を見いだしている。

⑤

<p>私はこの15回の講義の中で一番最初の「自己紹介文を書く」というのが印象深いです。あの時は福山大学の桜並木になど行って自己紹介文を書くということでした。最初の授業の時はまだ桜が満開でしたが、今はもう全て葉桜に変わっています。</p> <p>自己紹介文には、「桜の花が散っても夏には葉桜に変わり、その葉も秋には色を変え、冬には散り、次の春にはまた淡いピンクの美しい花が咲くから、今年の花が散ることは寂しくない。」というような文を書いたことを覚えています。でも実際はほんの少し、今は寂しいと感じることもありますが、夏の蝉の声もまた、季節を感じることが出来て風情があると思います。</p>	<p>このたった15回の授業で、様々な形式の日本語を知ることが出来ました。</p> <p>先生は、「本より上運することはないだろう。」とあしらって下さるが、私は、十分に最初の時より上運していると思うし、今の自分がずっと良い文章が書けると自負しています。</p> <p>これから、日本語について考えていければ良いと思います。</p>
<p>日本語表現法のレッスン</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介文を書く</li> <li>2 伝えるための表現のあり方1</li> <li>3 伝えるための表現のあり方2</li> <li>4 敬語の使い方</li> <li>5 意見文を書く1</li> <li>6 発想法</li> <li>7 文章の論構造</li> <li>8 要約から読解へ</li> </ol>	

▶一般論として「言語能力は一朝一夕に身につくものでもない」と言ったのに対して、自分自身の「上達」を自己評価し、「自負」を抱き始めている。

⑥

<p>自分は日本語表現法の授業を通して、敬語についてより深く考えることが出来ました。普段何気なく使っていた敬語でも、実際には使われていなかったり、間違った使い方をしていたり、ということを知ることができたこと、また尊敬語、謙譲語、丁寧語などの分類についても今一度学ぶ直すことができてよかったです。</p> <p>発想法では自分の考えた内容をシートに回で上手に表すことが出来ました。自分の伝えたいことを回で表すことがとても難しいということを知り、また、同じような講義が何回かあるとよいのは、もっと上手に作りたいと感じています。</p> <p>全体を通して、とても楽しく授業を受けることが出来たと考えています。単に日本語表現を学ぶだけでなく、時には友達同士で話し合っ</p>	<p>て結論を出し、シートにまとめたりしたことからも印象に残っています。(個人的にはこのようなグループワーク。時間をもっと取り入れてほしいと感じました。)この授業で、少しではありますが、確実に自分自身の日本語力がアップしたように感じます。今後この授業で学んだことを活かして、色々な人とコミュニケーションをとれたらいいなと思います。</p>
<p>日本語表現法のレッスン</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介文を書く</li> <li>2 伝えるための表現のあり方1</li> <li>3 伝えるための表現のあり方2</li> <li>4 敬語の使い方</li> <li>5 意見文を書く1</li> <li>6 発想法</li> <li>7 文章の論構造</li> <li>8 要約から読解へ</li> <li>9 意見文を書く2</li> <li>10 課題選択意見文を書く</li> </ol>	

▶友達同士で話し合っ結論を出すというアクティブラーニングの効用を実感し、より積極的なその導入を提言しつつ、自らの「日本語力のアップ」を感じ取っている。

⑦

日本語表現の授業を振り返って、先生の授業はけっこう独断でやり方を進めているなあと感じました。  
最初にも、た自己紹介では、ふつうのやり方とは違い、  
春だから 桜に関連付けて、自己紹介文を書けというのは、  
ざんしんで おもしろい方法 だと思いました。  
意見文のときには、自分でもあがっていた、段落をしっかりと  
つけることを、先生に指摘されて、自分のくせであった、  
一字下げのことを、じょじょに直していくことができたので  
よかったです。  
前期の間は ありがとうございます。もし、また、先生の  
授業をとる時があれば、その時はよろしく願います。

▶授業の意図を理解できている。表現方法についての具体的なアドバイスを受け、欠点を克服することができたと振り返る。波はあったものの、意欲的に取り組んだ学生である。

⑧

私の中で一番印象が深かったのは、第12回に  
した手紙・はがき・案内状の書き方です。なぜな  
ら、今まで形式的な手紙を一度も出したことがな  
く、また、書いた事が無いからこゝ書き方にたい  
へん興味があったからです。講義を聞き、実際に  
書き始めると、意外にすらすらと書いて気持ち良  
かったのです。近い将来このような手紙を出す機  
会があると思うので、その時は、学んだことを  
いかし、堂々と自信を持って手紙を出そうと思  
います。

また、一番楽しく感じたのは「意見文を書く」ことで  
した。これは、高校の時に授業で一度  
習っていたのですが、私の苦手分野で  
した。しかし、先生の分かりやすい講  
義によって書けるようになりました。  
書けるようになったと思った理由は  
提出したプリントの点数が良かった  
からです。その点数を見た時、実は  
飛び上がるほど嬉しかったです。  
これから日本語表現への考えを  
深めて行きたいと思っています。

▶これまで苦手分野であった意見文だが、採点返却された高得点に心から喜び、意欲と自信を持つことができた。

⑨

知っておかなければならない基本的な言葉の知識を確認できたのは良かった。自分で考えた  
文章を書くのはあまり好きではなかったが、慣れてくると自分で考えたことを文章にするという行為を  
おもしろく感じられるようになった。文章の論構造を整理して図に描き出すという行為が印象に  
残っている。図にすること頭を整理することができた。「文章が考えをつくる」ということを回を重ねるに  
つれて実感できるようになる。漢検や日本語検定の問題を解けたのも良かった。もともと本や  
新聞を読んで、語彙や知識を増やしていこうと思っていた。

▶文章の論構造と図解などを通し、〈文章が考える〉ということを実感することができた、と言う。

⑩

15回の日本語表現の授業を予定された。	
僕はこの授業というよりも全ての授業を1回も休まずに出た。	
前月の授業も皆満員で来られた。今とて充実感であふれては	
この日本語表現の授業は金曜日の4限で帰りたいな気が	
ちはすくすく増していってたが自分なりに頑張らして講義を受けた。	
この授業で敬語の使いかた、漢字検定なども通して	
自分の今の日本語力の無さが分かった。	
しかしこの15回の授業を通して大分成長することができた。	
これから日本語はおと必要なので日本語を使わないとこれ	
生きて行けなれと見えてくる。	
それに間違った日本語の使いかたをしていた自分も見つけた	
日本語表現法のレッスン	このまま社会に出ていると心もかいて
1 自己紹介文を書く	いたと思います。この授業で気づけたと
2 伝えるための表現のあり方1	思います。
3 伝えるための表現のあり方2	これから、この授業で学んできた事を生かして行け
4 敬語の使い方	た方がいいと思います。
5 意見文を書く1	半年ありがとうございました。
6 発想法	
7 文章の論構造	

►この授業のなかで、間違った日本語の使い方に気づくことができてよかった。このまま社会に出るのは恥だと認識することができた。

⑪

今日、日本語表現も最後です。僕は国語が一番苦手で	
科目だったの。大学に入って、国語能あるのはとても苦痛でした。	
しかし、テストもたいて、内容も、ちゃんと先生の話を聞いて、	
書くことができれば、自分の問題もよく乗りこなせたのでよかった。	
私が、一番悩んでいるレッスンは、文章から、図を書く内容です。	
読解力は、私にはあまりないの。好きになれないけど、図を書くこと	
する、レイアウトは得意なほうだと思ってる。それに苦痛には	
思いませんでした。しかし、内容が、魚の解法がわかる、などという	
よく分からない内容で、戸惑った部分もありました。しかし、先生は、	
どのように書けばいいかと、といったアドバイスを、声かけて下さいましたので、	
なんとか仕上げることができました。また次の時	
月には、他学生のよい作品を紹介するとして下	
まて、とても参考になりました。やっぱり、自分とは	
違う視点で図を書いていたので、分かりやすいところ、	
もあり、また想像力もなりました。	
日本語は、今の自分が、日常的に使っているが、	
まだまだ完璧にできていないわけがありません。この授	
業を通して、得たものたくさんありますが、まだまだ	
だと思っています。これから日本語について、	
考えたい時間があればいいなあと思います。	
前月の間、お世話になりました。	
日本語表現法のレッスン	
1 自己紹介文を書く	
2 伝えるための表現のあり方1	
3 伝えるための表現のあり方2	
4 敬語の使い方	
5 意見文を書く1	
6 発想法	
7 文章の論構造	
8 要約から読解へ	
9 意見文を書く2	
10 課題選択意見文を書く	
11 他者の文章から自己の文章を考える	

►他者の文章を読んで、ともに学ぶことの大切さを理解した。参考になり、得たものが大きかったと言う。

⑫

日本語表現の授業が嫌いなのは、普段何気なく使っている日本語でも、  
しつこく、じつこく教える使用と教える使用と違う。敬語の使い方も人それぞれ  
とによって違いがあり、手紙を一枚書くのにも色々あるけれども、  
ありとあらゆる最近では携帯メールを使って漢字をうっかり間違え、  
感じていると、  
感じている。要約などは大事な部分をピックアップし、それを繋げるために接続  
詞などを付けるのが、  
自分の中で思っていることを文章にする  
のは難しい。メールなどは絵文字などがあってもいいけど、  
そのように手紙のように書くのは、  
思っている。

▶ コンピュータ時代の漢字力について考えている。また、そういう時代に丁寧に手紙を書くことの意味を実感した、と言う。

## (2) 高校までの国語嫌いゆえの抵抗感を払拭し、自己の成長を語る者

①

私は、文を書くのが嫌いです。高校のときは感想を書け、〜について、  
などの言葉が出てくると気分が落ちこんでいました。なので大学でこのような授業が  
あり、しかも必須科目であることが、  
しかし、この授業だと自分で思っているくらい、  
自分の成長できたのではないかと感じました。

▶ 国語嫌いで不安があったが、文章を書くことができ、成長を感じている。

②

日本語表現法が始まった時は、国語嫌いの私にとって、  
とても苦痛な時間になるかと、  
けれども、高校までの国語とは違って、  
今まで、意見を言ったり、要約をしたりすることによって、  
自分の考えを整理して書くことが、  
実際、自分の中で納得のいく文章にはなりました。  
先生からコメントが返ってきた時に良い評価をもらっていたら、  
その日の日本語表現法の時間はとても頑張っていた  
気がする。課題の内容が好きな嫌いなによって、やる気が上下していた  
のは、  
。

▶ 苦痛な時間になる心配があったが、良い評価でやる気が出てきて頑張ることができたと言う。ただし、課題内容によってやる気に波はあった模様。

③

<p>私は国語の授業が好きでした。漢字を覚える、実際にそれが使えるようになったり、物語を読んだり、考案したりすることがとても楽しかったからです。しかし、意見文や要約文を書くことはどうしても苦手でした。書いてはうちに、色々な話題がとんでしまいい、一貫して自分の主張したいことを書いていくことが、その主張を支える根拠となる事柄をどう探していか、等々を考えながら、文章を構成していくことが苦手でした。しかし、この日本語表現の授業では文章を書く上で大切な敬語についてたり、接続詞だったり、段落の組み方、基本的な文の構成と、基礎の部分から丁寧に教えて頂きました。文の段落構成は、とても基本的なことなのに、意識していなかった。最初の一言が思い浮かばなかったり、段落の変更箇所がわからなかったりしました。敬語も正しく使えていなかったり、接続詞の何を使ったらいいかわからなかったり、文の構成もなかなか上手になりません。ですから以前に比べて長い文章を書くことが苦手はなくなりました。以前とまた違った日本語のおもしろさに気付くことが出来ました。これから先レポート等で長い文章を書くことになったときにも、思い出すから、少しでも文章を構成する楽しさを残って残していきたいと思っています。</p>	<p>前期の短い間では何れもありがとうございました。</p>
<p>日本語表現法のレッスン 1 自己紹介文を書く 2 伝えるための表現のあり方1 3 伝えるための表現のあり方2</p>	

▶国語は好き、文学は好きでも、評論文の読解や論理的な文章を書くのは苦手というタイプか。その苦手意識をいくらか解消でき、今後はそれを楽しみたいと言う。

(3) 高校までの国語嫌いを克服できないままに推移し、満足感を得られない者

①

<p>私は文を書くのが正直嫌いでした。 この授業のおかげで文の書き方、文章構成を学び、 以前より多少は文を書くのが楽になったと思います。 でもやっぱり私は文を書くのが嫌いです。</p>
--

▶以前よりは書けるようになったが、やはり文章を書くことは嫌いであると言う。

②

<p>日本語表現は言葉の正しい使い方を教えてくれた、という風に 使うのかを覚えなければならぬので表現するのが、莫大に苦痛だ。 最初の自己紹介文は正直言うとすごく苦痛な文になってしまって この文章を見てこの先本当にやめていけるのか?と思いました。 まあ文を見てつぎつぎと感じがしました。 発想がどうもテーマが出てくるのに文を書くのもおろか発想 すら出てこないの、すごくおたんとした言ひ意があります。 このレッスンを受けて不安から糸色望になっていった感じでした。</p>
---

▶レッスンを通して見て、不安どころか絶望を感じると、告白している。面談して見ても、苦手意識をなかなか克服できないと言う。

③

自分の漢字は得意だと言われる。

▶授業第13回の漢字の基礎確認において、他の学生たちが苦闘するなかでこの学生は意外にも意欲的に取り組む。尋ねてみると、微笑みながら漢検準2級を持っているのだと小さな声で語った。しかしながら、基本的にはあらゆる自己表現が苦手のタイプで、書けずに苦しんでいる様子は、見るのも忍びない。最後のコメントでは、「やはり自分の意見が少ない自分には難しい。」という言葉を絞り出したが、授業最後の振り返りレポートは白紙のままであるので、漢字の力に優れていたことを思い出させた。そこに上記の一言が生まれたのである。面談してみても、苦手意識をなかなか克服できないと言う。

④

意見を書くのが難しい。

▶ここにも自己表現が困難な学生がいる。いかにして彼らを解放し、表現の喜びを抱かせるのか。

#### (4) 授業での様子や提出物において学習困難な状態であると見なされていた者

①

私はこの日本語表現を受けて思ったことは、意見文・文章の論議構造などといった文章意図がとろくろか書きたたので、(うしろ)指図で示すのか種とた、けど、受け見て、少しは文章を書くことができたように感じたと思いました。

次に14、日本語語彙の基礎確認で意味は読めたところがあっても漢字が書けないところが多かったため漢字が書けるようにがんばって漢字を覚えていきたいと思っています。

②

この授業を通して文章表現を習うことが少しはわかったかなと思います。テーマから選んで意見文を書くもので、他の人の意見を読んでみて、直す部分が分かって意見文をかくて何となくできるようになったと思います。

③

振り返って、日本語というのは、会話や文章で表すのは簡単だと思っていましたが、中には、間違っている文章やあいまいな表現などがあり、正しい日本語とはどんなものなのかが分かりません。作者の言いたいことを明確にしていけるのは難しく、苦労しました。本はあまり読まないのが、人によって読んでいいかと思っています。

▶自分の考えが思うように表現できない状態を、彼らは何とか克服したようである。



- ④ 文章を書くこと、というより文章を書くことが好きだった。最後には自由に書かなければならぬ。そんな使命感。文章を書きながら、目標を見失うことや、文の繋がりがかたくなになるのは、結構通じなかつた。この時点で何も書きたかつたのか、即ち見失っていたりする。ちょうど、ボキャブラリーを増やして高校に入ってから本を読んだり、ネットで文章を見たりしてきたが、それほど増えなかつた。変な思考回路が組み立てられていたのは自覚していた。自覚しても直もないうが、これではいけない。性である。そういうことも言っているのではない、私が弱いのではなく、強すぎることがある。

▶ 自分自身の「思考回路」の乱れを自覚し、そのコントロールに今も悩んでいるが、このことを客観視することができている。

- ⑤ 今まで自分は日本語表現法については正しい知識を持っていると思、ていました。中学生、高校生の時もそのような授業の時は割と理解もしていたし、先生方にも敬語が上手だね、とほめられたりして、自信はあつた。しかし、この日本語表現の授業を通して、自分の日本語力はまだまだだ、という事に気付けたし、何より日本語というのは奥が深いものだ、と実感しました。これから、自分は就職活動をしなくてはならないですが、その就職先の専門知識を身につけるのも大それたが、日本語を身につけることも大切だと思いました。なので、この授業で学んだ事をこれから活かしていこうと思います。

▶ 自分の日本語力の不十分さを自覚し、これからの課題について語ることができている。

#### (5) 共通教育としての「日本語表現法」の意義を理解し、これを言語化する者

- ① 私は、日本語表現の授業を通して、どの回にも自分の日本語力の無さを実感しました。
- 手紙・はがき・案内状などの書き方という普段しないことはもちろんですが、敬語の使い方・意見文を書くというこれからはとても大切になってくることも、あまり知識が無かったことに気付きました。
- 1つの言葉に 대해서、様々な意味を持ちたり、言葉の使い方によって印象が全く異なったりするので、とても難しかったです。日常生活で、気にして言葉を使う機会が少ないので、授業という形で、日本語について学べたのは良かったと思います。
- これから、この講義が終わっても、少し言葉の使い方に関心をつけたり、意見文やレポートを書く際に、日本語表現で習ったことを思い出したりして、残りの大学生活はもちろん、将来に活かしていきたいです。
- | 日本語表現法のレッスン |               |
|-------------|---------------|
| 1           | 自己紹介文を書く      |
| 2           | 伝えるための表現のあり方1 |
| 3           | 伝えるための表現のあり方2 |
| 4           | 敬語の使い方        |
| 5           | 意見文を書く1       |

▶ 「授業という形で日本語について学べた」ことの意義を語っている。



②

もともと国語が得意で、比較的文章を書くのが好きで、私にとって、日本語表現という授業は楽しく感じた。人に自分の意見を伝える、相手に失礼のない言葉を使うなど、社会に出たら出来てあたり前のこと。こういう場で訓練する機会があまり、大変よいことだと思う。

第一印象に残っている授業は、意見文を書く授業だ。率直な感想としては、大変だった。なぜなら、高校でもこのように、何々の文章について意見を書くなどということは経験したことではなかった。しかし、終わってみて気づいたが、誰かの意見を聞かずに、適当に賛成するだけではなく、自分の意見としては、一面的な意見、色んな視野から考えていることが大切だと思うようになった。

そして、常用漢字の基礎練習として、漢字検定準2級、3級をばり、自分の漢字の書きかた

日本語表現法のレッスン	
1	自己紹介文を書く
2	伝えるための表現のあり方1
3	伝えるための表現のあり方2
4	敬語の使い方
5	意見文を書く1
6	発想法
7	文章の論構造
8	要約から読解へ
9	意見文を書く2
10	課題選択意見文を書く
11	他者の文章から自己の文章を考える

きには驚いた。普段、数学や化学式、英語を習うので、漢字に意識することは少なくて、パソコン、スマートフォンなど電子機器の普及により、漢字を書くことが少なくなったと気づいた。

この日本語表現の授業は私にとって色々と役に気づかせてくれた。特に、新しい発見も多かったと思う。そして、やはり私は国語が好きになったと実感した。

これから社会に出ていく上で、この授業はいつか必ず役に立つと思う。この授業を必要に日々勉強に（英語も）したいと思った。

▶「社会に出てあたり前のことをこういう場で訓練する機会」の重要性を語っている。「この授業はいつか必ず役に立つと思う。」とも述べている。

③

日本語表現なんて現文じみた講義を大学でやるとは思わなかった。文章を読んで要約、レポートや論文ではない文章を書くなんて高校でやったのが最後になつてしまっていた。高校の通常授業が終了し約3ヶ月、全く本を読んだりまじめな文章を書かなかった。だから、ざいぶんと文章力が読解力が低下していた気がした。文章力の読解力は読め書きを継続しなければ低下していくんだな、とふしむを感じた。

構築中、提出プリントを書く人は、めんどうだと思っ反面、少し楽しいと感じていた。書きたいことが文章にどうやらイライラしたり、なんとなく自分の思う事が書けたり満足したりした。荷文語の田では、改めて自分は読解が苦手だと再確認した。だから、今までよりも必要になってくるものなので、なんともした。漢字の田では、思った以上に漢字を忘れていて驚いた。

日本語表現法のレッスン	
1	自己紹介文を書く
2	伝えるための表現のあり方1
3	伝えるための表現のあり方2

せや中々デジタル化の風点を感ぜた。

この授業も、ちゃんと文章を書いて文章力も読解力もこのように上げない方がしたい。

▶「日本語表現なんて現代文じみた講義を大学でやるとは思わなかった」とは言うが、高校の授業が終わって以降、文章力が低下していたので、授業での文章レッスンは意味があった、と言う。

- ④ 今まで勉強してきた日本語表現が、15回すべてを通して考えてみると、こう身になったのではないかなと思う。
- 具体的に述べてみると、「敬語の使い方」、「手紙の書き方、案内状などの書き方」が身になったことの大きなところだと思う。そこで私の不得手とするところだったので、これを1つの練習としてとらえ、勉強したことはとても良いことだったと思います。これは今後、大学生生活や就職後に役立てていこうと思っています。
- 意見文などの文章についてですが、これはどこから不得手としていたわけではなかったもので、どこからあったかをさらに高めることで授業を受けていました。その交り果としてはなかなかないので、以前に比べより良い文章を作成する能力が身についたのではないかなと思っています。
- | 日本語表現法のレッスン         | 常用漢字や日本語語彙についてですが、これはやはり    |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 自己紹介文を書く          | またまた自分の勉強不足を思い知る結果となりました。   |
| 2 伝えるための表現のあり方1     | 別に検定を受けるつもりは無いのですが、日本人であり   |
| 3 伝えるための表現のあり方2     | また、これから社会人になろうとしている身としては    |
| 4 敬語の使い方            | 最低限身に付けておくべき知識なのではと思います。    |
| 5 意見文を書く1           | しかり勉強していると思っています。           |
| 6 発想法               | 最後は、この授業自体のことですが1回生のときに     |
| 7 文章の論構造            | 受けるというのは、かなり意味のあるものであったと思って |
| 8 要約から読解へ           | います。これを生かしていけるように頑張っている     |
| 9 意見文を書く2           | と思っています。ありがとうございました。        |
| 10 課題選択意見文を書く       |                             |
| 11 他者の文章から自己の文章を考える |                             |

▶初年次教育の意義について、「この授業自体のことですが、1回生のときに受けるというのは、かなり意味があるものであったと思っています。」と述べている。

▶この他にも、「最初の内はなぜ理系の学部なのに日本語表現があるのか疑問だったが、この講義を15回終えて、日本語の大切さに気づくことができた。」「高校の時に日本語表現のような授業がなかったので大学に入って改めて日本語表現法を学び、自分の表現力のなさを知りました。」など、初年次共通教育としての「日本語表現法」の意義を、学生はそれぞれ語っている。

ところで、学生のこれらのコメントは、それ自体がじつは意見文なのである。それぞれの直筆文章をそういう目で見ると、いまだに段落意識が欠如している者がごくわずか見られるが、ここに抽出したものだけではなくてそのほとんどは、段落意識をしっかりと書かれている。このことはとりまなおさず「日本語表現法」の一つの成果、学生の成長と言えるのではないか。

日本語は、彼らの母語である。学生のその言語能力実態を踏まえながら、より有効な「日本語表現法」授業を創るために、多くのヒントや課題を学生のことばから読み取ることができるのである。

## 7. 自己評価とポートフォリオのシステムへの構想

本研究で導き出された授業改善につながる様々な可能性を、本学の初年次教育全体に展開することを想定した場合、利便性や作業の効率化など導入のしやすさを考慮すると LMS（ラーニングマネジメントシステム）の活用が必要不可欠になる。そこで、学生による学習成果の自己評価およびeポートフォリオの分野において、日本国内でも先行して取り組みを行っている九州工業大学学習教育センターを視察し、同大学が進める「eポートフォリオを使った学修自己評価の取り組み」に関する情報収集を行った<sup>4</sup>。

視察の主な目的は、eポートフォリオ導入の背景と課題、導入メリット、全学展開や運用状況について、推進母体である学習教育センターの先生から率直な意見を伺い、そのノウハウを本学への本格導入時の参考とするためである。視察時の打ち合わせにおいては、ウェブサイトやパンフレット等では知ることの難しい一歩踏み込んだ内容についてまでお話を伺うことができた。

視察によって得られた情報を、視察目的の3点に照らし合わせて、以下に紹介する。

ポートフォリオ導入のきっかけは、JABEE<sup>5</sup>の認証に必要な条件を満たすため（平成14年）であった。学生自身が学修目標の達成状況を継続的に点検できることと、それを学修につなげられるようにすることが条件として求められたため、学習教育目標<sup>6</sup>とカリキュラムマップの整備を行ったのが始まりであった。平成20年に、それまで紙媒体で管理・運用されていたポートフォリオが電子化され、九州工業大学独自のeポートフォリオシステムへと進化した。

このポートフォリオシステムを通じて、ただ卒業に必要な単位を取得することを目的とするのではなく、学生自身の学修目標に応じた科目履修や単位取得を促したいと考えられている。

ポートフォリオシステムの導入メリットは、おもに以下の6点である。①学生が内省する機会の提供とトレーニング、②教員と学生とのコミュニケーション支援、③問題学生の早期発見、④学生指導に対する教員の意識改革、⑤教育システムの対外的なアピール、⑥データの利活用（アンケートの実施など）。

全学的な導入にあたっては、学部学科ごとに温度差があるのが実情である。強制的に使わなければいけないというものではなく、取り組みの意義について大学全体でコンセンサスを得て、広く学生に伝えていくように運用されている。

今回の視察目的に対する以上のような回答に加え、以下のような新たな視点に気付かされる内容も提供頂くことができた。ひとつには、履修科目の成績が表示されるだけでなく、科目ごとに学生自身の自己採点を追加することができるので、学生の満足度から学生視点での履修科目の評価を行うこともできる。さらには、ポートフォリオの作成は強制ではなく、学生自身の主体性に委ねており、更新の頻度や記入されている項目なども、学生によってバラツキがあるが、結果的に義務化していない現在でも約70%がポートフォリオシステムを利用しているというデータが出ており、やらなければいけないというものにしてしまうと上手くいかないということ。

国立大学法人および工業大学という特性、学生や教職員の人数など、本学と異なる要因も数多く、今回の視察で得た情報やノウハウがそのまま活かせることは限られているかもしれないが、LMSを平成27年度より本格導入する本学にとって得るものの多い視察となった。

なお、この視察は竹盛・前田で行ったものである。

## 8. おわりに

本研究は、「本学学生の学修改善に資する自己評価システム開発のための基礎的研究」において、「学生の自己評価導入」を試行し、そこから「日本語表現法」における初年次教育の改善のための考察を行ったものである。

学生の能力を見極め、彼らの意識に寄り添い、懇切丁寧な指導と対応が求められている。本学学生の学修改善に資するために、このたびの「自己評価」の試みを通し、授業のあり方をさらに検討するとともに、自己評価のあり方をさらに修正していかなければならない。

### 【注】

1. 平成24年度、磯貝淳一答申のこと。
2. 「本学学生の学修改善に資する自己評価システム開発のための基礎的研究」は、平成26年度、大学教育センター大塚豊教授を中心にして行われている。
3. 統計分析に加え、橋本教授には平成26年12月9日、大学教育センター教員を中心とする研修会にて「授業の統計分析の方法と結果について」と題してレクチャーをしていただきました。厚くお礼申し上げます。
4. 平成26年10月31日、九州工業大学学習教育センターへの視察では、センター長の西野和典教授をはじめ、坂本寛教授と林朗弘准教授には、多くの有益なご示唆をいただきました。感謝申し上げます。

5. 日本技術者教育認定機構。
6. これが、たとえば『九州工業大学 情報工学部が掲げる学習・教育目標について2012年度版』（平成24年4月 九州工業大学情報工学部教育委員会 JABEE 対応委員会）においても示されている。

## 〈別表〉

日本語表現法 自己評価の観点と評価の分布（％）

回	テーマ	観点	自己評価規準	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	自己紹介文を書く							
2	伝えるための表現のあり方1	A	論理的な繋がりを意識してことばの展開を見通すことができたか？					
		B	接続詞に応じた様々な状況を想像することができたか？					
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？					
		D	ひとくちコメント					
3	伝えるための表現のあり方2	A	話題の組み合わせによる文章展開を理解することができたか？					
		B	状況の的確な説明と、明確な主張の効果的な表現について考えることができたか？					
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？					
		D	ひとくちコメント					
4	敬語の使い方	A	敬語の用いられる場面を想像し、その場面を創作することができたか？					
		B	敬語の構造について考えを深めることができたか？					
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？					
		D	ひとくちコメント					
5	意見文を書く	A	自分自身の意見を持つことができたか？					
		B	効果的な文章構成を考えることができたか？					
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？					
		D	ひとくちコメント					
6	発想法	A	ことばの構造を理解することができたか？	31.7	41.9	19.5	5.7	1.2
		B	思考の図解方法を考えることができたか？	17.9	29.7	38.6	11.0	2.8
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？	41.1	29.3	26.0	2.4	1.2
		D	総合的に達成感があるか？	23.6	43.9	26.0	5.7	0.8
7	文章の論構造	A	文章の論構造に目を向けたか？	27.1	39.7	27.5	4.5	1.2
		B	思考の図解になれてきたか？	21.5	35.6	34.8	6.5	1.6
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？	39.3	32.8	23.1	3.2	1.6
		D	総合的に達成感があるか？	27.9	41.7	23.9	5.7	0.8
8	要約から構想へ	A	文章を読んで、そこから書くことの構想をすることができたか？					
		B	文章の要点をつかむこと、それを支える仮説形成について、理解できたか？					
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？					
		D	総合的に達成感があるか？					
9	意見文を書く	A	課題文を読んで、自分の考えがたちになったか？	20.7	33.5	27.7	14.0	4.1
		B	文章構成（要約・引用・叙述形式）の技法を理解したか？	17.8	34.7	30.6	12.0	5.0
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？	33.1	35.5	21.9	7.0	2.5
		D	総合的に達成感があるか？	26.4	29.8	33.9	7.0	2.9
10	課題選択意見文	A	関心のあるテーマについて自分の考えを表すことができたか？	34.4	38.5	21.7	3.7	1.6
		B	パラグラフ意識を持って書くことができたか？	29.1	38.9	25.0	4.5	2.5
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？	42.2	34.4	19.7	1.6	2.0
		D	総合的に達成感があるか？	31.1	38.9	25.0	2.9	2.0
11	他者の文章から自己の文章を捉える	A	テーマの捉え方が拡大していったか？	32.0	35.6	25.9	4.0	2.4
		B	自分の表現の特徴を客観的に捉えることができたか？	28.3	34.4	28.3	6.5	2.4
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？	32.0	31.6	26.3	8.1	2.0
		D	総合的に達成感があるか？	28.3	33.6	28.7	6.5	2.8
12	手紙・葉書・案内状などの書き方							
13	常用漢字の基礎確認							
14	日本語語彙の基礎確認							
15	日本語表現を考える	A	文章表現のあり方について意識を高めたか？	38.7	39.5	16.8	4.2	0.8
		B	文章表現技法を学修できたか？	30.3	47.9	16.8	4.2	0.8
		C	レッスンに意欲的に取り組めたか？	42.4	32.4	21.4	2.9	0.8
		D	総合的に達成感があるか？	42.0	41.2	12.6	3.4	0.8